

核兵器廃絶を切に願う

自分で見て聞いて聞いて平和の大切さ実感

原水爆禁止2018年世界大会―広島に参加して

全国的に記録的な猛暑が続く中、世界大会が開催されました。7月の豪雨災害では開催地広島でも甚大な被害が出ましたが、「被爆地の運動としての責務をはたそう」と被災地救援と大会開催に全力を尽くしての開催となりました。「みみはら」からは1・2年目職員を中心に25人が参加しました。

て、堺代表団の交流会に参加しました。2日目は分科会にそれぞれ参加。たくさんの方が熱意をもって運動している姿を実感して、夜の交流会に参加しました。

核兵器禁止条約の採択と南北と米朝首脳会談で、核兵器のない世界と朝鮮半島の実現に向けた大きな流れの中での開催となり、会場は熱気に包まれていました。開会式では、市民の共同で逆流する安倍政権を押し返そう、と力強い開会宣言がされました。とりわけ

3日目は平和記念式典を見るために平和公園へ。この暑さの中で、原爆による地獄は筆舌に尽くし

1日沖縄会議からの新基地建設撤回にむけた連帯と支援が訴えられ、大きな拍手が沸き起こりました。開会式後に「原爆の子の像」八千羽鶴を奉納し

鶴を奉納し



▲折り鶴を贈る

▶みみはらからの参加者



がたく、核兵器廃絶を切に願う時間となりました。閉会総会では、市民社会と政府のさらなる共同なことを訴える「広島からのよびかけ」が採択されました。

今回、「みみはら」の参加者のほとんどが初めてで、今まで漠然と平和学習を受けたただけだが、自分で見て、聞くことで、より深く感じる事ができたとの感想やたくさんの人に知ってもらうため、まずは身近な人へ話をしたいとの決意や、原爆投下後の看護師の献身的な活動に感銘したとの声が聞かれました。

(みみはら原水禁世界大会実行委員会 事務局長 吉本 和人)

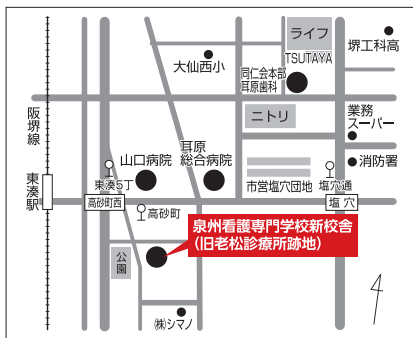


世界大会全体会

社会医療法人 泉州看護専門学校 同仁会 内覧会のお知らせ

新築移転につき、募金にご協力いただきましたみなさま、ありがとうございました。いよいよ、完成の運びとなりましたので、以下の日程で内覧会を開催します。

9月23日(日) 午前10時～12時
午後1時～3時



シリーズ 現場からの視点

その39

今年梅雨のころは寒かったのですが、その後、急に異常な暑さになりました。

高齢者にとって、エアコンは馴染みがなく、毎年夏の暑さは身体で慣れていくものという昔からの概念もあります。

日々の暮らしが厳しく、無駄な何かを削ることをするとき、まず贅沢品から...と思われる傾向もあります。高齢に伴い、毎年体力が低下していることや、温度の感覚が鈍っていることを感じず、自分は大丈夫と思われるのではないのでしょうか。

お茶さぐ飲んでいけば大丈夫。食べることが楽しみ。そこを削減するくらいなら、暑さなんてちよこ我慢すればどうにでもなる

エアコンは贅沢品？ ガマンは禁物

熱中症調査から見てきたこと

過信されている面もあるようです。

建物の密集している地域は、エアコンや車を使うことで周りの温度を上昇させます。しかし、エアコンをつけなければ、部屋の温度はより上昇し、体力が持たないのが現状です。

熱中症調査後に、「補助や支給があれば、エアコンをつけますか?」の問いには、「そうつけるわ」と即答されました。臨時福祉給付金(65歳以上の住民税非課税の方を対象に支給された給付金)等のお金ではなく、エアコンや電気の補助を現物支給してもらえないかと思えます。クールビズより、命のほうが大切だと思えます。官公庁にリストを設置するだけではなく、一人一人の家庭への補助を考慮してほしいものです。



センター
（鳳在宅介護支援
吉川 真帆）